

# 第1学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年11月10日(月) 第6校時  
 学 級 1年A組(男子12名、女子12名)  
 授業者 教諭 栗本 睦子

## 1 単元名 「今に生きる言葉」

## 2 単元について

中学校国語の古典学習の導入として、1学年の古文「竹取物語」で、歴史的仮名遣いや古文の音読に取り組み、古文の基礎的事項を学習する。そのあと、本単元である「今に生きる言葉」として、漢文を学習する。漢文の書き下し文に触れながら、漢文の基礎的事項についても学習する。

そこで、日常使っている言葉や名言名句になっている故事成語を調べ、短文やかるた作りに取り組みさせることで、言語への興味関心を高めていきたい。

また、音読の機会を多く設定し、漢文の書き下し文の独特の調子にも慣らせることで、古典文学への興味関心をもたせ、2年生の「漢詩」や3年生の「論語」の学習につなげていきたい。

## 3 生徒について

生徒たちは小学校で、古典の音読に取り組んできており、印象に残っている作品として、「平家物語」や「竹取物語」、「枕草子」を挙げている。この3つの作品は、中学校で詳しく学習する教材である。古典学習の導入で実施したアンケート結果によると、古典の音読に抵抗を感じている生徒が多く、「言葉が難しい」「うまく読めない」ことを理由に挙げている。歴史的仮名遣いや現代語と古語の違いに戸惑っているためだと考えられる。

そこで、音読の機会を多く設定することで、古文に慣れさせ、自信をもって音読をさせたい。また、かるた等を取り入れることで、古典作品に興味、関心をもたせたい。

**表1 古典に関するアンケート(1年A組24名) 10月21日(火)実施**

質問	回答	人	質問	回答	人
1 小学校の時、古典の学習は	ア 好き	4	3 グループでの意見交流は	ア 好き	10
	イ どちらかと言えば好き	9		イ どちらかと言えば好き	10
	ウ どちらかと言えば嫌い	9		ウ どちらかと言えば嫌い	0
	エ 嫌い	2		エ 嫌い	4
2 自分の考えを書くことは	ア 好き	3	4 発表することは	ア 好き	4
	イ どちらかと言えば好き	12		イ どちらかと言えば好き	3
	ウ どちらかと言えば嫌い	7		ウ どちらかと言えば嫌い	7
	エ 嫌い	2		エ 嫌い	10

## 4 単元の指導目標

- (1) 積極的に短文を作ろうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- (2) 故事成語の意味を理解し、文章の中で使うことができるようにさせる。【読むこと】
- (3) 漢文の基礎的事項を理解し、音読できるようにする。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)】
- (4) 調べた故事成語でかるたを作らせる。【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ)】

## 5 単元の評価規準

観点	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元名			
今に生きる言葉	積極的に短文を作ろうとすることができる。	故事成語の意味を理解し、文章の中で使うことができる。	・「矛盾」の書き下し文を音読することができる。

## 6 単元の指導と評価計画

時	指導内容	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
第1時	・「矛盾」の書き下し文と口語訳の音読			書き下し文を音読することができる。
第2時	・「矛盾」の書き下し文の音読 ・「矛盾」の短文作り		「矛盾」を使って、短文を作ることができる。	
第3時 (本時)	・「矛盾」の書き下し文の音読 ・選んだ故事成語の短文作り	積極的に短文を作るろうとしている。	故事成語の意味を理解し、文章の中で使うことができる。	
第4時	・故事成語のかるたで交流	積極的にかるたに取り組もうとしている。		
第5時	・漢文の基礎知識の理解			白文、訓読文、書き下し文を理解することができる。

## 7 本時の構想

### (1) 本時の目標

- ・選んだ故事成語で短文を作ることができる。

### (2) 研究に関わって

視点1 「単元及び1時間単位の指導目標（到達目標）を明確にした指導の工夫」について

- ・選んだ故事成語の意味が理解できたかを確認するために、個人で作った短文をグループ内で交流させ、短文を完成させる。

視点2 「学ぶ意欲を喚起する学習課題の工夫」について

- ・選んだ故事成語の短文を作り、説明やアドバイスをさせることで、故事成語の意味の定着と他の故事成語への興味関心を喚起する。

視点3 「学習課題に即した言語活動の工夫」について

- ・かるた作りのために、故事成語を使った短文を書かせる。

視点4 「次時へ意欲をつなぐ、ふり返りの場の設定」について

- ・授業の終わりに「学習チェックシート」で自己評価させ、発表をさせる。

### (3) 本時の評価

具体的評価規準 評価の観点	A：十分に満足できる	B：おおむね満足できる	Cの生徒への手立て
国語への 関心・意欲・態度	作った短文の見直しをしようとしている。	積極的に短文を作ろうとしている。	故事成語の意味を確認するように支援する。
読む能力	故事成語の意味を理解し、自分の体験を入れた短文を作ることができる。	故事成語の意味について理解し、短文を作ることができる。	故事成語を辞書で調べ、例文を参考にして、短文を作るように支援する。

(4) 本時の展開

	学習内容	学習活動	形態	指導上の留意点 (・) 評価 (○)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の音読</li> <li>学習課題の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員で一斉に音読する。</li> <li>「学習チェックシート」を確認する。</li> </ul>	全 全	○「矛盾」の書き下し文を音読することができたか。
	学習課題：選んだ故事成語を短文で表現しよう。			視点1 「学習チェックシート」で学習内容を確認させる。
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>作り方の確認</li> <li>故事成語選び</li> <li>短文作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時で作った短文で、作り方を確認する。</li> <li>故事成語集から、一つ選ぶ。</li> <li>ワークシートを配り、辞典等で意味を調べ、短文を作る。</li> </ul>	全 個 個	○故事成語を使い、文を作ることができたか。 ・机間指導で、生徒の様子を観察し、必要に応じて個別に助言する。
	・交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で、説明、アドバイスをする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     説明の手順 ①選んだ故事成語 ②故事成語の意味 ③短文の紹介                 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     アドバイスの観点 ①故事成語の使い方が正しいか ②短文の長さは適切か                 </div>	グループ	視点2 個人でまとめることで、かるた作りへの意欲をもたせる。 ・机間指導をしながら、生徒の様子を観察し、必要に応じて、個別に助言する。
	・見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>アドバイスをもとに、修正しながら完成させる。</li> </ul>	個	視点3 グループで交流しながら、学習意欲を喚起する。
	・完成	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成した短文を短冊に記入し、黒板に掲示する。</li> </ul>	全	○短文を短冊にまとめられているか。
終末 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価</li> <li>次時の連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想などを学習チェックシートに記入する。</li> <li>学習チェックシートを用いて、感想の発表をさせる。</li> <li>次回、かるたを完成させ、交流することを確認する。</li> </ul>	個 全 全	視点4 「学習チェックシート」に記入させ、授業の振り返りをさせる。 ○評価を記入できたか。 ・次時に発表会を行うことを予告する。